

日米共同情報分析組織（BIAC）への豪国防当局の人員の参加について

趣旨

- 我が国周辺における情報収集・分析能力を強化するため、令和4年11月の米軍無人機MQ-9の一時展開を契機に日米共同情報分析組織(BIAC)を横田基地内に設置。
- BIACは、日米の情報収集アセットが取得した情報を共同で分析し、日米間の情報収集、警戒監視及び偵察(ISR)における協力関係の深化に大きく貢献。
- 情報収集・分析能力を一層強化するため、豪国防当局の人員もBIACに参加。これは、ISR分野における日米豪3か国の協力関係を一層深化させるもの。なお、当該豪国防当局の人員は在日米軍の指揮の下、在日米軍が担う情報分析業務に従事しており、日米安全保障条約の目的の達成に資する米軍の活動を担うもの。
- 本年9月5日、日豪外務・防衛閣僚会合(「2+2」)において、豪国防当局の人員の参加を公表。

概要

- 設置場所:横田基地内の既存施設
- 任務:日米の情報収集アセットが収集した情報を共同で分析し、日米豪の各部隊に共有
- 人数:2名(運用上の所要に応じ変動する可能性あり)
- 対象とする情報:我が国周辺海域における艦艇、船舶の所在等に関する情報
- その他:人員派遣のみであり、これに伴うアセットの派遣は予定されていない。

